

## みやぎ発信型新規野菜の安定生産技術(フィノッキオ)

農業・園芸総合研究所

### 1 取り上げた理由

当所では、宮城県とイタリア・ローマ県との友好姉妹協定を契機に、イタリア野菜の生産普及に向けた技術開発を行っている。これまではプンタレッラ(ローマ近郊の伝統野菜)とタルディーボ(レッドチコリーの細葉不結球タイプ)の栽培技術を確立し、すでに宮城県内で生産が開始され、外食業務向けに販売経路を開拓している。

これらのような、国内供給を輸入に依存している品目は他にも多数ある。また、生産農家が商業的に生産するには複数品目を扱う場合が多い。そこで、西洋料理店等で需要の見込まれる有望な品目としてフィノッキオについて、宮城県内における作型と安定的に生産できる技術を体系化したので普及技術とする。

### 2 普及技術

#### 1) 特徴

セリ科フェネルの変種で、葉柄の基部の肥大した部分を野菜として用いるものをフィノッキオ(*finocchio*[伊], *florence fennel*[英])という。

葉柄の基部はさわやかな香りと甘みが特徴で、生食や加熱料理に使用する。葉や種子も香り付けに使用する。国内流通品は輸入品が多くを占める。



図1 フィノッキオ

#### 2) 作型

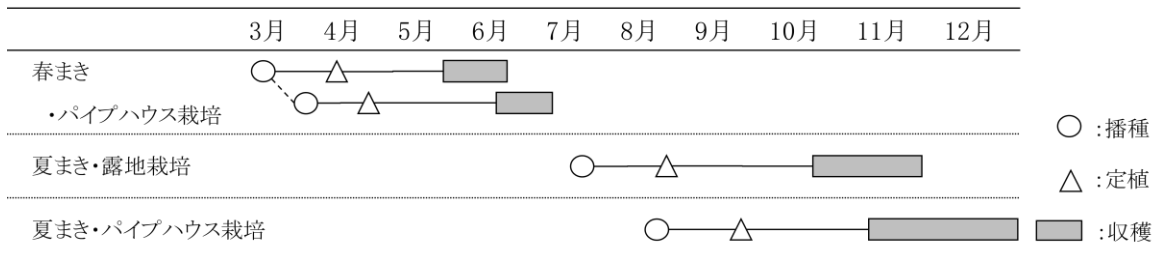


図2 宮城県におけるフィノッキオの作型

#### 3) 栽培

春まき・パイプハウス栽培の播種時期は、3月上旬から中旬が適する。抽だいの早い品種は3月上旬に播種する(表1)。また、春まき栽培では腐敗株が発生するので黒マルチ被覆は避ける(表2)。

夏まき・露地栽培では7月上旬、夏まき・パイプハウス栽培では8月中旬に播種すると10月以降収穫時期となる(表3)。夏まき栽培では抽だいの心配はないが、基部の肥大が進みすぎると外葉の地際部から裂けるので注意する。

本圃での栽植密度は、1aあたり400~500株程度(ベッド幅80cm, 通路50cm, 株間25~30cm, 条間25cm, 2条植え), 基肥は窒素成分で1.5kg/a程度を施用する。

#### 4) 収穫

フィノッキオは可食部の葉柄の基部が球状に肥大したら収穫する(図1)。春まき栽培では品種によっては5月中旬頃から収穫時期になるが、品質低下を防ぐため株が抽だいする前に収穫する(表1)。

### 3 利活用の留意点

- 1) フィノッキオの苗は根量が少なく、地際部が細長くなるので、定植時に根部と地際部を切らないように注意する。
- 2) フィノッキオの出荷調製では、鮮度保持のため根部と葉柄を落とすことが多いが、葉を香り付けとして料理に使う場合もあるので出荷先の要望にあわせる。

3) フィノッキオの栽培ではアブラムシ類が発生することがあるので、「野菜類」の登録農薬で防除を行う。平成24年2月現在、作物名「フェンネル(葉)」を対象に登録されている農薬はない。

4) 経営試算の参考として、1a当たりの粗収益と生産経費を算出した(表4)。

(問い合わせ先：農業・園芸総合研究所 バイオテクノロジー開発部 電話022-383-8131)

#### 4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名および研究期間

みやぎ発信型の新規園芸品目の定着技術の確立(平成21～23年度)

2) 参考データ

表1 播種時期が収量に及ぼす影響(春まき・パイプハウス栽培, 平成22年度)

品種	播種日	定植日 <sup>z</sup>	収穫調査日	定植後 日数	株重 <sup>y</sup> (g)	抽だい株率 (%)	収穫株率 (%)	換算収量 <sup>x</sup> (kg/a)
「モンテビアンコ」	3/8	4/6	6/24	80	849.2	0.0	90.0	305.7
	3/23	4/16	7/2	78	793.3	62.5	37.5	119.0
「ロマネスコ」	4/5	5/6	7/7	63	580.6	27.3	72.7	168.9
	3/23	4/16	7/2	78	1077.5	0.0	100.0	431.0
	4/5	5/6	7/7	63	684.0	0.0	100.0	273.6
	4/22	5/11	7/7	58	340.0	0.0	100.0	136.0

z) マルチ被覆なし。 y) 株重=地上部重(基部+葉柄)

x) 栽植密度：1a当たり400株(ベッド幅80cm, 通路50cm, 株間30cm, 条間25cm, 2条植え)。基肥は窒素成分1.5kg/a施用。

表2 マルチ被覆が収量に及ぼす影響(春まき・パイプハウス栽培, 平成22年度)

播種日 定植日	マルチ 被覆 <sup>z</sup>	収穫調査日	定植後 日数	株重 <sup>y</sup> (g)	腐敗株率 (%)	抽だい率 (%)	収穫株率 (%)	換算収量 <sup>x</sup> (kg/a)
3/23-4/16	あり	7/2	78	1103.3	11.1	46.0	42.9	189.1
	なし	7/2	78	1077.5	0.0	0.0	100.0	431.0
4/5-5/6	あり	7/5	61	409.5	29.2	0.0	70.8	116.0
	なし	7/7	63	684.0	0.0	0.0	100.0	273.6

\*) 供試品種：「ロマネスコ」 z) 黒ポリマルチ使用 y) 株重, x) 栽植密度, 施肥は表1と同じ。

表3 播種時期が収量に及ぼす影響(夏まき・平成22年度)

播種日 定植日	栽培ほ場	品種	マルチ 被覆 <sup>z</sup>	収穫調査日	定植後 日数	株重 <sup>y</sup> (g)	換算収量 <sup>x</sup> (kg/a)
7/5-8/12	露地	「モンテビアンコ」	なし	11/10	91	757.5	303.0
		「ロマネスコ」	なし	11/10	91	856.7	342.7
8/12-10/6	パイプハウス	「ロマネスコ」	あり	12/20	75	795.0	318.0
		「ナポリ」	あり	12/20	75	891.7	356.7

z) 白黒ダブルマルチ使用 y) 株重, x) 栽植密度, 施肥は表1と同じ

表4 1a当たり粗収益, 生産経費

項目	金額(円/a)	備考
粗収益(円/a)	90000	・目標収量：300kg/a ・参考単価：300円/kg <sup>z</sup>
生産経費(円/a)	16100	・パイプハウス栽培を想定。出荷販売経費は含まれていない。

z) 生産者, 実需者からの聞き取り調査を参考にしている。

3) 発表論文等

- a 関連する普及に移す技術 a) 「みやぎ発信型野菜タルディーボの安定生産技術」(第86号普及技術)  
b その他 なし 4) 共同研究機関 なし